



史記と経済開発 (3000年前の地域開発の創始者たち)

3月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2022年3月11日(金)

太公望は、夏王朝と殷王朝に続く中国約3100年前の周王朝の文王、武王の軍師であり、軍事と謀略の始祖である。併せて、地域開発の創始者でもある。殷討伐を一旦中止した2年後、再び殷討伐の軍がいざ出陣しようとした時、“亀甲の占い”が凶と出、激しい風雨が襲った。

全軍が怖気づくなかで、太公望がただ一人、亀甲の占いなどは迷信で意味がないと全軍の出撃を叱咤激励した。

武王は討伐を決行し、殷を打ち破り周は天下を取った。

亀甲による卜辞は当時の絶対の占いであり、これを無視するには相当な勇気が要る。しかし占いの吉凶は重要なことを実行する際の決断には不要とした。実行することの“実”を重視して、表面的な“空”とも言うべき些事、迷信にこだわることはない。

このような思考方法は、当時においては稀有で、画期的な事であった。

太公望は、その功により周王朝より、營丘(齊の国)の諸侯に封ぜられた。

当時、齊の地は海に近く塩分を含んだアルカリ性が強く、農耕には適さないやせた土壌であり、人口も少なかった。

太公望は、その地の習俗を尊重し、礼を簡略にし、特に女子に機織りを奨励して、技術を極めさせ、工業を起し、また魚塩を輸出して交易の振興を図った。

その結果、各地から人も物資も陸続と齊に集中し始めた。

かくて齊は、あらゆる物資の集散地となり、周辺の諸侯も齊へ来朝することが多くなり、大国へと行って行った。3000年の昔、太公望は地域開発の最初の人物とも言うべきである。

その後、齊の国は一時衰えを見せたが、約2700年前“齊の桓公”の時代に“管仲”が現われ、“官鮑の交り”で有名な親友の“鮑叔牙”の支援も受け、齊を“春秋の覇者”として、天下をひとつにまとめ中国の覇権を握った。

管仲は、齊の宰相として、経済官庁を設置し、物価調整などの規則を設け、齊の経済と政治を再建した。

管仲自身も邸宅を三ヶ所にかまえ、列国の君主よりもなお裕福となった。

人は利のために集まり、道徳は生活が安定してから生まれてくる。

管仲の“倉廩満ちて礼節を知り、衣食足りて榮辱を知る”という名言は、経済は政治・道徳の前提、基礎であること、を示して余りある。

参考：史記(齊太公世家、貨殖列伝)、司馬遷史記(徳間書店)